

異常高温に警戒！ 飽水管理の徹底で稲の活力維持を！



新潟地方気象台が8月3日に発表した1か月予報によると、向こう1か月間の気温は「高い」確立が70%と予報され、特に期間の前半は「かなりの高温」になる見込みです。水管理により土壌水分の保持に努め、高温への最大限の警戒をしてください。

1 飽水管理を継続してください

- 登熟初中期はデンプン蓄積が盛んな時期ですので、飽水管理を継続し、田面を乾かすことがないようにしてください（根からの窒素吸収量が十分あれば、登熟が向上して収量・品質が高まります）。
- 極端な高温やフェーンが予想される場合は、速やかに湛水して稲への水分ストレスを軽減しましょう。ただし、根腐れ防止のため湛水は一時的なものとしてください。
- 完全落水はできる限り遅くし、出穂25日後以降をめやすとしてください。

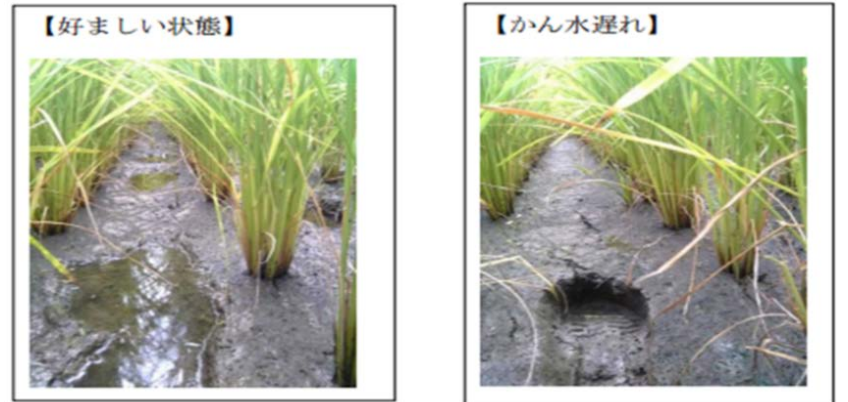


図 飽水管理の状態（足跡に水が残る程度）

2 ほ場ごとの収穫適期を確認してください

(1) 出穂期と収穫適期のめやす

- 早刈りや刈り遅れとならないよう、ほ場ごとの出穂期を確認したうえで収穫計画を立てましょう。
- 特に法人等の大規模生産者は、収穫の中心が収穫適期となるよう、無理のない計画としてください。

表 出穂期と収穫適期のめやす（8月3日現在）

	品種名	出穂期	出穂後の積算温度	収穫適期のめやす
早生	新潟次郎	7月20日頃	1,000℃	8月27日頃～
	五百万石	7月22日頃		8月28日頃
	わたぼうし	7月23日頃		8月29日頃
中生	こしいぶき	7月30日頃	975℃	9月6日頃
	こがねもち	8月1日頃		9月9日頃
	コシヒカリ	8月3日頃 8月5日頃 8月9日頃(中山間地) 8月15日頃(山間地)		1,000℃
晩生	みずほの輝き	8月11日頃	1,050℃	9月24日頃
	いただき	8月12日頃	1,050℃～	9月25日頃～

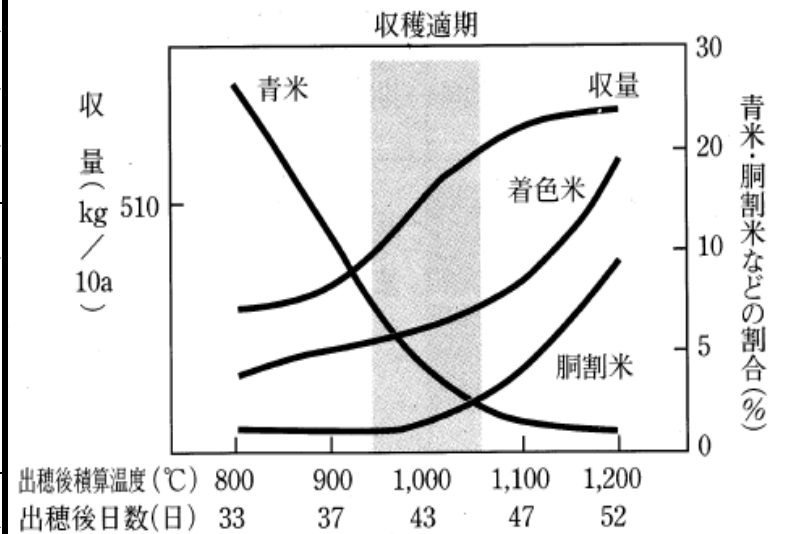


図 出穂後積算温度と玄米品質

- ※ 積算温度は8月7日以降は1か月予報の予測値を使用。今後の天候で適期が前後する場合がある。
- ※ 中山間地、山間地は関山のアメダスデータを、その他の平坦地は高田のアメダスデータを使用した。
- ※ 登熟後半が高温になるときは立毛胴割れの発生が懸念されるため、刈り始めを2日程度早める。
- ※ 飼料用米（新潟次郎、いただき）は、登熟と立毛乾燥を期待し、記載積算温度以上を確保すること。

(2) ほ場ごとの収穫適期判断

- 積算温度は一つのめやすとして活用し、実際の収穫適期は右図を参考にほ場ごとに判断してください。
- ほ場ごとの収穫適期は、穂全体の85～90%が黄化し、穂の基部に緑色の籾が一部残っている頃で、早生品種では出穂38日後、コシヒカリでは出穂40日後がめやすになります。
- 茎葉の色だけで収穫適期は判断できませんので、必ず籾の黄化率を確認した上で、ほ場ごとに収穫適期を判断してください。

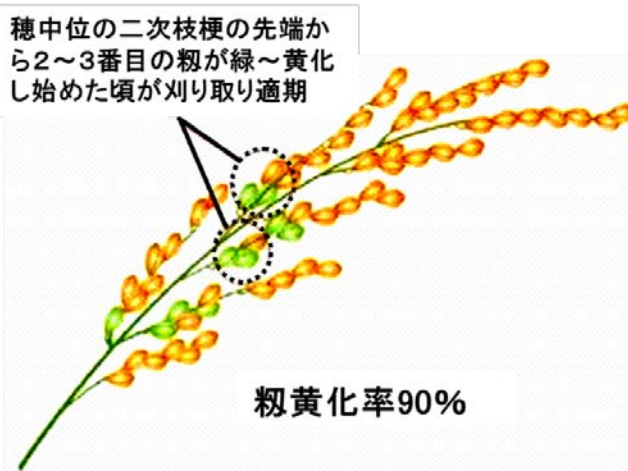


図 収穫適期の籾と収穫判断の方法

適期確認の流れ

- ① 1次枝梗が9本程度の平均的な穂を選ぶ
- ② 中位の1次枝梗の中から2次枝梗を探す
- ③ 2次枝梗の先端から2, 3番目の籾の黄化を見る
- ④ 2, 3番目の籾が黄色に変わりかけている頃がその穂の収穫適期
- ⑤ 同様に10本の穂を調べ、8本以上が当てはまれば、そのほ場の収穫適期

